

①



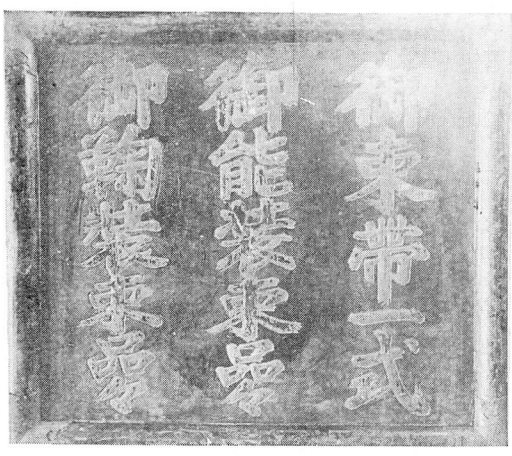
②



③



④



口絵 三井越後屋江戸本店の看板

①江戸本店大看板 大正一三年七月旧三井文庫撮影 元京本店保管、大正八年三月旧三井文庫引継 昭和二〇年五月焼失

△寸法▽竪六尺(一・八二五m) 幅二尺八寸七分(八七・二cm) 厚三寸四分(一〇・二cm) 重量二六貫六五〇目(約一〇〇kg) △材質▽樺材 (旧三井文庫測定)

写真の反対面の刻字「●六ぬと物、きんきんろけねなし、三井ゑちこや」

②江戸本店看板 明治三七年三井家編纂室撮影 当時三越呉服店所蔵

△寸法▽竪六尺 幅二尺六寸 厚三寸三分 重量二〇貫目(「大正三越歴史写真帖」による)

③江戸本店看板 明治三七年六月三井家編纂室撮影 当時三越呉服店所蔵

④江戸本店看板 明治三七年五月三井家編纂室撮影 当時三越呉服店所蔵

これらは、三井文庫に伝えられた江戸本店の看板写真のすべてであるが、焼失したか或は所在未確認で、いずれも三井文庫には現存しないものである。

三井越後屋の看板としては右のほか、①と同様に旧三井文庫に引継がれ昭和二〇年五月二四日未明の米軍空襲によって焼失したものが一七枚あった。それらは大看板、立看板、柱看板、釣看板、屋根看板等と分類されているが、寸法、形状については伝わっていない。現存するものは三越資料館に一枚あり、管見の限りこれが唯一のものである(竪一一八cm、幅七二cm、厚4cm)。

江戸駿河町の三井越後屋を画いた各種の絵画でみると(外観では、歛形蕙斎筆のものが最も精密かつ正確、内部では歌川豊春画「浮絵駿河町呉服屋図」など)、②に当る看板は駿河町通りに面した外側に三本、室町通りに一本、柱を立てて屋根をつつけて掲げてあるものである。この配置は化政期の店図面とも一致する。尤も②には釣カギ用の穴があけられており、若干の疑問点を残す。この種の看板は表裏二面に刻字され、一面は漢字、他面はかな字を用いている。その巨大さから旧三井文庫では大看板と名付けているが、店図面では立看板となっている。①は②とは文言が若干異り、同種のものかどうか確言し難いが、大きさはほぼ同程度であり、いずれにせよ外部に掲げられたものであることは疑いない。

③と④は店内に掲げられたもので、③は室町通り側の売場(東見世)の柱に、④は同じ東見世の一角の天井近くに掲げられていることを確認できる店頭画がある。掲示場所の性質上裏面に文字はないと推定される。但し寸法、材質等に関する記録は伝わっていない。

これらの看板が実際使用された時期については記録がないが、明治期には少くとも外部にこの種の看板が永く使用された形跡は見出せない。

(田中)